

第41回大分県麦作共励会

3月14日に第41回大分県麦作共励会の表彰式が大分県教育会館で開催されました。

麦作振興を推進する上で他の模範となり、規模拡大や実需者との播種前契約を達成する上で重要となる収穫量と品質の向上に対する取り組みを行っている集団及び個人の農家に対し表彰するものです。

国東市から「個人の部」で、吉崎祥平さん（国東町）が優秀賞を受賞しました。

吉崎さんは小麦栽培にて土壌改良材と肥料を施して地力の向上を図っており、単収は335kg/10a、品質は全量1等と、県平均を上回る成績でした。また、タンパク含有率向上のため、出穂後実肥散布を2回実施するなど実需者ニーズに沿った麦作りを実践しています。



▲右から3番目 吉崎徳孝さん(祥平さんの父)

平成27年産東部地区飼料用米共励会

3月7日に平成27年産東部地区飼料用米共励会表彰式が国東市役所安岐総合支所で開催されました。

県全体としても「単収向上」が大きな課題となっていることから、東部振興局管内地区の単収の高い生産者を表彰し、生産意識向上を図るものです。

国東市から安部眞一さん（安岐町）が管内地区の単収の高い生産者として入賞しました。



▲左から2番目 安部眞一さん(安岐町)

第47回大分県農業賞

2月25日に第47回大分県農業賞表彰式が大分県庁で行われました。

大分県農業賞は、大分県の農業振興を目的に、先進的な農業技術の導入や経営の合理化等を図り、企業的な農業経営を行っている個人及び法人等を表彰するものです。

国東市から「集落営農・むらづくり部門」で農事組合法人 中園営農組合（安岐町）が優秀賞を受賞しました。

同組合は、農地集積のほか、排水対策、土壌改良に積極的で、規模拡大により機械の効率利用を図り、米・麦・大豆の単位収量は県下でもトップクラスで売上高を年々伸ばしていることによる受賞となりました。



▲右 宇都宮善次 前組合長 左 加藤哲也 組合長

農事組合法人「櫛来やまびこ」設立

3月8日、上櫛来地区の農家6名で構成する農事組合法人「櫛来やまびこ」(国見町)が発足しました。

「櫛来やまびこ」は、地域の農業者の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の防止や、機械化による効率的な農業に取り組むなど、地域の担い手となることを目的に今後活動を行ってまいります。



▲前中央 山本年雄 組合長

3月1日

ソニーセミコンダクタ株大分TICC存続決定

県知事が定例記者会見で、3月末で生産を終了するソニーセミコンダクタ株大分テクノロジセンターが、開発部門と担当従業員を当面残すことをソニー側から説明を受けたと発表しました。今後は、ソニーセミコンダクタ(本社・熊本県菊陽町)で生産する半導体製品全般の開発に携わる予定になっています。これまで県や市議会と連携して工場の存続を要望してきた三河市長は、「世界的ブランドが地元にあるかないかは大きな違いがあります。存続を決めていたいただき感謝している」と話しました。



3月10日

奥松農園が進出表明

宮崎市でミニトマトやキュウリなどを生産している奥松農園(奥松健二代表(取締役))が、県庁で進出協定を締結しました。今回開設される農場は、ビニールハウス5棟(計約2ヘクタール)で、国東町浜の借地に設置します。4月に新会社を設立し、来年4月から高糖度トマトを栽培する予定です。奥松代表は、「自分の持つ経験を伝えて、社員を経営者に育てていき、地域の雇用増に貢献したい」と話しました。



3月16日

石田製綱(株)大分工場増設雇用にも期待

国東町川原で合繊ロープの開発・製造している「石田製綱株式会社」の石田一太郎取締役工場長が市役所を訪れ、三河市長に増設表明書を手渡し、お互いに協力と支援をしていくことを約束しました。石田製綱によると、既存の工場棟に建物面積1,672.5㎡の増設し、今年6月からの稼働を予定。従業員も新たに10名を雇用するとしています。



3月19日

企業合同就職説明会を開催

市内の製造業や医療・福祉、農業などの16事業所が参加して開催された合同就職説明会。今回は、今年度で就職活動を予定している大学生や市内外からの一般の方など55名が参加しました。次回は、夏に説明会を開催する予定です。



3月14日

豊和銀行と地方創生実現へ「包括的連携協定」を締結

国東市は、豊和銀行(権藤淳頭取)と、地域発展に向けた産業の創出のための人材育成・人材交流及び地域経済活性化

に向けたまちづくりについて相互に連携し、地方創生に寄与することを目的とした包括的連携協力に関する協定を締結し

ました。この協定により、豊和銀行の「雇用・住居・子育て環境」を3つの柱とする地方創生への支援に加え、新規就業や起業の知識を活用して地域振興を図っていきま

